

うりずんとは…「潤う」と水が土にしみとおる「染む」からなる言葉で、沖縄の若夏をあらわします。さわやかな南風が吹き、野山は緑にあふれます。うりずんのようにやさしい風に包まれて、ゆったりとした時間を過ごしていただきたいという思いから名付けられました。

ご報告

うりずん学習会 「外出は社会参加！」 大盛況でした



9月30日(日)にうりずん学習会「外出は社会参加！」(独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業)を開催いたしました。

講師は、知る人ぞ知る人工呼吸器をつけた子の親の会(バクバクの会)編集長で保育園の講師も務められる平本歩さんです。平本さんは現在26歳。人工呼吸器を生後6か月より装着し、地域の保育園、学校に通学し、大学受験にも挑戦、そして、現在は7つの事業所から総勢30名ほどのヘルパーに24時間365日支えられながら、自分の思い描く一人暮らしをされています。今回は、生い立ちからお父さんとの死別、たび重なる行政との交渉の結果、現在に至るまでの経過をお話いただき、「やりたいこと」「自分で決めたい」という当たり前の生活を紹介していただきました。

発表は、ご自身が用意した原稿をヘルパーが代読、さらに60枚以上の写真と動画をスクリーンに投影、文字盤の使用、舌や表情、指先など様々な方法で他者に思いを伝達するという方法で進められました。

また、第2部では得意のピアノを平本さんとヘルパーの清田さんが披露して下さいました。パソコン操作で使用する手の指をピアノの鍵盤にあて、清田さんと連弾をされたのです。会場には当事者、きょうだい児、参加者のお子さまなどがいらしたので、



平本さん、清田さんのピアノの連弾風景

用意した鳴り物の楽器と一緒に合奏し、会場の皆さんも手拍子で参加、楽しく、感動的で貴重な体験でした。

連弾されたヘルパー清田さんからは、音楽療法士から医療的ケアが必要なお子様達と関

わり現在に至った経緯と、ヘルパーの立場から見た平本さんの生活楽しく紹介していただきました。

今回の講師に共通していること、それは、特別視されがちな障がい、医療的ケアを感じさせないということでした。目の前にいる人と(人として)の関係性を大切にすること、無理というあきらめや決めつけを真っ先にしないこと、一緒に楽しむこと、生活であるということを当たり前のように考え、工夫・実践・歴史を積み上げることが大切であるということを教えてくださいました。

講師である平本さんの言葉です。「なんで地域によって違うのかな?」「自分のことは自分で決めたい!」「ヘルパーさんは私の生活すべてを支えてくれる人。だからとても大切な人です」「医療的ケアを特別視しないでください。日常生活支援行為です」。そして、清田さんの言葉は「たんで苦しそうな人が目の前にいる、たんを取り除くことのできる人が来るまで苦しいのに、自分がとってはいけないのだろうか」「ケアができないからと関わりを断つのはもったいない」。これらの言葉、皆さんはどのように受け止めますか?

ご参加いただいた方からのアンケートでは、「栃木も早く平本さんのような生活が送れるような日が早くきますように!」という趣旨の感想が複数ありました。

台風が接近している中、参加していただきました65名の皆さん、遠方よりお越しいただいた平本さん、清田さん、同行された2名のヘルパーさんに、心より感謝申し上げます。大変、有意義な学習会となりました。

(三上 綾子)



平本さんの発表風景

学習会担当スタッフより

はるばる兵庫県から講師の方々、ヘルパー様をお招きし、このような貴重な会を設けられたことにとても感謝しています。

平本さん、清田さんのお話を聞き、これから自分がどのような支援者になりたいのか、改めて考えなおす良い機会となりました。当日は不手際が多くあったことと思いますが、アンケート

を読み、参加者の方々のあたたかいお言葉はとても嬉しく胸にひびきました。

講師の平本様、清田様、付き添いで来られたヘルパーの方々、参加者の皆様、スタッフ、学習会に関わったすべての方々に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

(介護職 高橋 実音子)

日中一時支援事業(レスパイトケア)
サービス提供責任者 山元 朋子

うりずん日記

皆様こんにちは。秋の心地良い季節となりました。

うりずんは怒涛の夏休みシーズンを終え、一息ついたところでしょうか。夏休みは通学籍の利用者様で大賑わいとなり、うりずんをより一層明るくしていただきました。夏休みは学校がないのでラッキーと思いきや、皆様、友達との再会で嬉しそうにしているんですね。

*

うりずんを更に賑やかにしていただいたのは・・・新規のご利用者の方々です。4月以降、新規の利用者様のお問い合わせが増え、お蔭様で現在0～4歳の6名様とご契約を締結することができました。うりずんの利用者様の平均年齢もグッと下がりました。

年齢的にはまだお家以外で過ごすことに慣れていない利用者様ばかり。お母さんのことが恋しくて泣くことも多々ありましたね。とにかく機嫌を直してもらうために必死なうりずんスタッフ……。まだまだ保育の腕を磨く必要あります！

利用回数を重ねる毎にうりずんにも慣れてくださるはず。今いる利用者様も最初はそうでした。時間が経てば、利用者様もご家族もお互いにとって良い休息時間となることを願っています。



初めての鉄琴！

新規の利用者様に「うりずんは楽しい場所」と思ってもらえるよう、先輩利用者様にもご協力を頂きながら、スタッフ一同頑張ります！！

ご飯、嬉しいな！



お友だちとランチ



体操、楽しいな！



いいお顔



音が鳴るかな？



日中一時支援事業

●平成24年7月～9月のご利用状況 (人)

7月	8月	9月	合計
69	67	58	194

* いずれも延べご利用人数です

●平成24年7月～9月のご来所状況 (人)

	7月	8月	9月	合計
見学者	0	2	0	2
ボランティア	0	1	0	1
計	0	3	0	3

●現在の登録状況………23名

* 登録ご利用者の年齢 ……………0歳～19歳

* 現在契約準備中の方 ……………1名

居宅介護事業

●現在の登録状況………7名

* 現在契約準備中の方 ……………2名

※詳細につきましては、ひばりクリニックHP「うりずん活動報告書」をご参照ください。



あ～やのつぶやき

うりずん管理者 三上 綾子

平成24年度より介護職員等による喀痰吸引等（認定を受けた介護職員等がたんの吸引、経管栄養を実施）が実施されることになりました。

うりずんでは栃木県が主催する喀痰吸引等研修事業の特定の者研修（第3号研修）の受講と実地研修をスタッフに修了させ、認定特定行為業務従事者の登録申請をしてきました。

同時に法人としては、喀痰吸引等を実施するという事業所登録が必要で、登録喀痰吸引事業者（登録特定行為事業者）の

申請準備を進めてきました。

新しいことで書類も多く、わからないことがあると県の担当者に相談したり、全国にいる仲間たちの動向を確認したりして準備してきました。

うりずんから見ても、かなり現場は混乱し、煩雑さ、難しさから医療的ケアを実践してきた事業所仲間が手を引くという残念な話もちらほらと耳にすることがありました。

スタッフが育つには時間がかかります。技術や知識は慣れですが、利用者を理解した上での支援ですから、関わる回数、経験の積み重ね、個人の感性などが重要なんですね。

やっと育ったスタッフが、この秋に2名退職となり、うりずんにとっては大打撃ですが、頑張りたいと思います。

ご挨拶

♪ 風を感じて ♪

特定非営利活動法人うりずん

理事長 高橋昭彦



🌸 はじめに

秋気さわやかな季節となりました。平素は大変お世話になりありがとうございます。

暑かった夏も終わり、子どもたちもちょっとしたお出かけやお散歩を楽しむことができるようになりました。

このところ子どもの地域ケアについては、風向きが変わってきたと感じます。重い障がいを持つ子どもは、要介護状態のお年寄りに比べると少数派であり関わる人も少ないのが現状です。そのため、関心をもつ人も少なく、サービスや制度も十分でない状況でした。しかし最近、少しは追い風が吹いてきたと感じられることがあります。

🌸 制度の動き

まず、平成24年度から新たにできた制度のうち2つを紹介します。これらは、全国で同じような取り組みを目指しているところにとっては、追い風となることでしょう。

「医療型の短期入所」という障がい児・者系のサービスがありますが、これまでは入院設備のある医療機関などでないと実施は不可能でした。しかし24年度からは、日中のみの医療型短期入所（つまり日中のお預かり）については無床診療所（*）でも可能となりました。

また、「療養通所介護」というサービスがあります。これは、末期がんや神経難病のあるお年寄りを訪問看護ステーションで預かるという介護保険サービスですが、24年度からは、重症心身障害児者を通わせる児童発達支援等との併用を認める制度ができました。つまり、高齢者の通所（デイサービス）に障がい児

が通うというスタイルです。この制度の事務連絡は、厚生労働省の社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課と老健局老人保健課という部署が連名で出しています。

🌸 日中一時支援に新たなランクが誕生：日光市

現在、うりずんの日中一時支援は、宇都宮市、日光市、塩谷町、鹿沼市の4つの自治体と契約しています。いずれも、人工呼吸器をつけた重症障がい者等と、それ以外の医療的ケア（たんの吸引、経管栄養、導尿）を必要とする重症障がい者等という2つのランクの子どものみが対象でした（文言は自治体により多少異なる）。そのうち、この度、日光市との契約では「医療的ケアに準ずるケアを必要とする重症障がい者等」という3つめのランクの報酬単価（4時間以上10,000円）が新たに加わりました。これは、通常の保育では対応が難しい子ども（障がいがありけいれんを合併しているなど）の預かりニーズに日光市が迅速に対応してくださったことから誕生したものです。

🌸 平本歩さんの風

人工呼吸器をつけてさっそうと新幹線で栃木に来ていただいた平本歩さんの姿（1面参照）は、しっかりと目に焼き付きました。ピアノ演奏では、歩さんが舌で最初の音頭を取り、清田さんとのコラボで実に楽しいひと時でした。大人になった歩さんは保護者同伴ではなく、優秀なヘルパー2人と外出されます。ここに栃木の10年後、20年後の姿があります。歩さん、ヘルパーの皆さん、参加して下さった皆さん、ありがとうございました。

🌸 職員の入職・退職

この秋、中川智子、高橋実音子という2人の職員がうりずんを去ることになりました。2人とも、うりずんが目指している「医療的ケアが必要な子どもの暮らしを支えることができる介護職」に成長した貴重な人材でした。2人のこれまでの尽力に感謝し、前途を祈りたいと思います。また9月より、齋藤志津香（介護福祉士）を雇用しました。大阪で介護経験のある齋藤はすでに新たな戦力になってくれています。

まだ追い風は、やんわりとしたそよ風です。「うりずん丸」がその風を受けるために、募集中の人材とともに、帆柱を立て直し、帆を張って前へ進んで行きたいと思っています。

引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（*）無床診療所：入院ベッドのない診療所

うりずん役員紹介



● 名 前：柚崎 通介（ゆざき・みちすけ）

● 経 歴：大阪出身。1985年自治医大卒業。1993年同大学院修了後、米国ロッシュ分子生物学研究所にて博士研究員。2003年まで米国セントジュード小児研究病院にて助教授、准教授。2003年帰国。慶應義塾大学医学部教授。神経生理学。

● 尊敬している人
全ての人の心の良心

● 休日の過ごし方
犬（メープル）の散歩・読書

● うりずんに対する思い
高橋昭彦理事長（同級生）とうりずんの理念に強く賛同しています。微力ながらお手伝いさせていただければ幸いです。

WAM助成事業報告&お知らせ

●2012年度、独立行政法人福祉医療機構(WAM)社会福祉振興助成事業より300万円交付決定を受けたため、既存の制度外で必要な支援を実践しております。

●皆様からのご要望すべてに応えるには難しい現状がありますが、これを機に新たなしくみが地域に出来る第一歩になることを願っています。

●事業内容の一部を紹介

◇9月13～14日のざわ特別支援学校5年生の校外宿泊学習において、うりずん利用者様3名の送迎、付き添いを行いました。(日帰り支援 看護師1名 介護職3名 運転手1名)

◇9月27～28日の聾学校の高校3年生の校外宿泊学習に、うりずん利用者様1名にスタッフが同行しました。

(宿泊支援 看護師1名 運転手含む)



◀うりずんのお友達、学校の同級生と一緒に泊りしてきました！

川で魚のつかみ取りをして、キャンプ場で調理をして、炭で焼いて食べました▶



※学校行事のため、保護者の同行が参加の条件でした。

●お知らせ

助成事業の一環である第2回学習会のお知らせです。

独立行政法人福祉医療機構(WAM)社会福祉振興助成事業
うりずん学習会 2012 冬

テーマ「重い障がいのある子どもの自立」

内 容/李国本修慈さん(兵庫県伊丹市)を講師にお招きします。

国本さんは「有限会社しえあーど」「NPO法人地域生活を考えよーかい」において24時間365日の生活支援事業を実施なさっています。

日 時/平成24年12月2日(日) 10:00～13:00

会 場/パーティ(とちぎ男女共同参画センター)3階
研修室301

定 員/100名(事前申込必要)

※詳細はホームページをご覧ください。

ここに一冊の本があります。

「よい子」じゃなくていいんだよ

著者: 戸田 竜也 出版社: 新読書社

●新規利用者の増加、居宅支援などで、きょうだいと関わり、きょうだいの様子や家族の思いを聞くことで、多くのことを考えるようになりました。

●この本の著者は、自身が障がいのある妹の兄として経験し、感じた当事者の視点と、現職(日本福祉大学社会福祉学部卒業後より教育分野に携わり、現在、北海道教育大学釧路校専任講師)である立場からの視点を併せ持った上でのきょうだい児支援を紹介しています。

●当事者と支援者、双方の視点で語られたこの本の内容はとてもわかりやすく共感できるものでした。ぜひ、ご一読ください。

(古橋 芳子)



NEW FACE 新しいスタッフの紹介

はじめまして。

9月1日より、うりずんで介護職として働くことになりました齋藤志津香(さいとうしづか)です。

出身は大阪で、以前は成人の障がい者の方の通所施設で働いていました。みなさんと楽しく過ごしていきたいです。

どうぞよろしくお願いいたします。



編集後記

主人の転勤のため1/20で、ここ栃木県から離れることになりました。
うりずんに勤めて2年半こんなにも早く皆さんとお別れすることに申し分ない気持ちでいっぱいです。皆さんとの出会いは、私の人生の中でとても大きな意味のあるものでした。遠くから皆さんの笑顔を思い出し、応援しています。短い間でしたが本当にありがとうございました。一生忘れません。またいつの日か会えることを楽しみにしています。

高橋 実音子

今回の通信の編集をさせていたことが私の最後の仕事となりました。

9月末日で退職いたします。

ご利用者様と過ごした時間は私の宝物です。みな様が元気で自分らしく幸せに暮らせますように願っています。

これまでたくさんの方々に支えていただきました。どうもありがとうございました。 中川 智子



協賛企業様
あなたのキャリアにエールを



KEEP CARRIERE
キープキャリアエール



うりずん通信・テレマカー

第 3 号 2012年10月20日発行

<http://hibari-clinic.com/urizun/index.html>

《編集・発行》 特定非営利活動法人 うりずん

〒321-2118 栃木県宇都宮市新里町丙357-14

TEL: 028-601-7733 FAX: 028-665-8899

Mail: urizun@hibari-clinic.com

《デザイン・印刷》 デザインスタジオ アクセス

NPO法人うりずん寄付者名簿(敬称略) 平成 24 年 6 月 1 日～9 月 20 日

ご寄付 2,959,733 円をいただきました。ご支援ありがとうございました。

*掲載順は都道府県の50音順になっております。

■一般寄付者 延べ 130 名 (うち匿名希望 29 名)

福 島	宇都宮市	三條 安子	宇都宮市	三澤くに子	東 京	新 潟
いわき市 天野 ゆみ		篠崎 文男		村田 光敏	世田谷区 梶原 厚子	新潟市 田中 美央
栃 木		下泉 秀夫		渡辺 育子	中野区 中村 知夫	長 野
宇都宮市 阿部 光子		五月女浩之	小山市 太田 秀樹	練馬区 宮地三千代	佐久市 橋本 佳美	
安納 トコ		大門 亘	鹿沼市 宇賀神 敏	三輪 操子	石 川	
倭文 一彦		高橋 チイ	塩谷郡 小野崎千鶴子	高嵐 恒男	金沢市 綿谷 修一	
宇賀神剛志		高橋 令子	下野市 浅野 博孝	遠藤 頼子	小松市 柳原 重子	
薄井 益美		高松 祐一		鈴崎 卓哉	押野 泰枝	
小澤 武史		高柳慎八郎	栃木市 大出 陽子	加藤 邦子	中井菜穂子	
小島ミツイ		床井ハツエ		藤田 進	能美市 仲井 培雄	
小野 静子		長野 純子	那須町 黒田美知子		滋 賀	
小野 佳子		中村喜久美	日光市 齋藤 芳也	医療法人社団 さいわいこ	竜王町	
金澤 林子		羽石 洋子	手塚 和江	どもクリニック 宮田章子	医療法人社団弓削メディカル	
金子 俊文		早川美奈子	長谷川興賢	東大和市 大塚 孝司	クリニック理事長	
金子 洋子		原澤 直人	畠山 由美	神奈川	雨森正記	
鴨志田好子		牧野力ツコ	佐藤 幸一	厚木市 江頭 文江	奈 良	
瓦井 健一		増淵 静枝	猪野 正子	川崎市 村上紀美子	奈良市 富和 清隆	
(株)キープキャリアール		増淵 美樹		大和市 新田 文恵	福 岡	
菊地アサコ		鱒淵 芳男	埼 玉	横浜市 中畝 治子	久留米市 福田 明子	
菊地 和子		松嶋 洋子	さいたま市 うりぼう	山 梨		
黒崎 ヒロ		松嶋 林三	戸田市 前田 啓子	甲府市	ご氏名ご連絡先不明	
小森谷浩明		御子貝敦子	千 葉	ふじ内科クリニック	ご連絡先不明 T・T	
齋藤 紀枝		御子貝荒江	白井市 大内和雅子	内藤いづみ	ご連絡先不明 T・K	
佐藤 一幸		御子貝和子			匿名 29 名	
里村 泰行						

■賛助会員 155 名 (うち匿名希望 20 名)

福 島	宇都宮市	篠崎 文子	宇都宮市	村田 隆一	日光市	斎藤 和子	青梅市	藤田 進
いわき市 天野 ゆみ		柴田 敦子		米良 聖子		佐々木真理子	東大和市	海老原宏美
茨 城		清水 康子		山口 和子		手塚 和江	府中市	小沢 浩
古河市 植竹 忠		下泉 秀夫		山越 篤子		手塚 コウ	武蔵野市	稲森絵美子
結城市 渡辺 勇		助川 勉		吉永久美子		畠山 由美	神奈川	
栃 木		関口 忠司		渡辺 照美		福田 栄子	厚木市 江頭 文江	
足利市 鈴木 博文		高木登茂子	大田原市 菅谷アサ子	菅谷アサ子		福田 英子	川崎市 村上紀美子	
宇都宮市 赤羽 康雄		高野 一之	小山市 池之内光子	池之内光子		牧 有香	藤沢市 佃 朋子	
阿久津節子		高橋 勝久	鹿沼市 あすか整骨院	あすか整骨院		山内 勝男	大和市 新田 文恵	
磯川 洋子		高橋 寿江		小島寿美代		鈴木奈津子	横浜市 尾崎 雄	
岩上 初枝		高松 祐一		下妻 和彦		高津戸英男	中畝 治子	
宇賀神トミ		高柳慎八郎		新川キミ子	群 馬		山 梨	
薄井 益美		手塚 敏子		半田身和子	前橋市 吉野 浩之		甲府市 ふじ内科クリニック	
大橋 照美		長尾 恵子	河内郡 稲葉 信子	稲葉 信子	埼 玉		内藤いづみ	
小荷田忠幸		長瀬 幸子	塩谷郡 小野崎千鶴子	小野崎千鶴子	戸田市 前田 啓子		新 潟	
小澤 武史		長野 純子		小池 央子	新座市 山丸 淳司		新潟市 田中 美央	
尾島 優子		中村喜久美		野中 英夫	千 葉		長 野	
加藤 ます		並木 由美	さくら市 川上 智子	川上 智子	佐倉市 米澤 純子		佐久市 橋本 佳美	
金澤 知子		橋本 正行	佐野市 齋藤 輝江	齋藤 輝江	東 京		石 川	
金子 俊文		長谷川道夫	下野市 赤木 芳枝	赤木 芳枝	渋谷区 東尾 愛子		金沢市 正源寺美穂	
金子 洋子		羽石 洋子		岡島 美朗	世田谷区		小松市 清水まゆ美	
瓦井 健一		早川美奈子		寺沼 幸子	医療法人社団親樹会		能美市 仲井 培雄	
清嶋 和仁		半田 久江	栃木市 石河 不砂	石河 不砂	恵泉クリニック 内田玉貴		滋 賀	
小口 幸夫		廣瀬 芳子		金坂 直仁			長浜市 中村 泰之	
小堀トミ子		藤岡 浩美		栗山 宏			岡 山	
斎藤真理子		本多 幸子		若林 広子	中野区 宮地三千代		倉敷市 森貞 敦子	
相良 律子		牧野力ツコ		若林 広人	練馬区 三輪 操子		福 岡	
櫻井 則子		増淵喜代子	那須烏山市 横山 孝子	横山 孝子	遠藤 頼子		久留米市 福田 明子	
里村 泰行		松島 一夫	日光市 大橋 康宏	大橋 康宏	鈴崎 卓哉		宮 崎	
澤田 和子		村田 弘子		加藤力ツイ	港区 酒井三貴子		日南市 池田 輔昭	
篠崎 文男		村田 昌子		川味 エエ	目黒区 加藤 邦子		匿名 20 名	

■団体会員 10 団体

栃 木	千 葉	滋 賀
宇都宮市 アグリランドシティショップ	松戸市 医療法人 実幸会 いらはら診療所	竜王町 医療法人 社団弓削メディカルクリニック
株式会社 ファーマーズ・フォレスト	石 川	理事長 雨森正記
デイサービスサン・大谷代表 三條安子	小松市 NPO 法人 いのちにやさしいまちづくり	福 岡
(有) ワイド企画介護事業所にこぐさ	ぼぼばねっと	久留米市 医療法人 福田こどもクリニック
栃木市	愛 知	
日光市 特定非営利活動法人 毎日クリスマス	豊川市 医療法人 信愛会 理事長 大石明宣	
理事長 三上幸子		

お詫び

前回7月発行のうりずん通信・テレマカシー(第2号)に掲載いたしました寄付者名簿に不備がありましたことを、深くお詫びいたします。

今後とも変わらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

お知らせ

日頃より、「うりずん」にご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ご寄付をいただきました方の中にご不明なところがあり、お礼状と領収証をお送りできない方がいらっしゃいます。さしつかえなければ、ご連絡をいただけますようお願い致します。

〇お名前・ご連絡先不明

H 24.4.28 (ゆうちょ銀行へお振込み)

H 24.6.4 (ゆうちょ銀行へお振込み)

〇ご連絡先不明

H 24.7.11 T・T 様 (栃木銀行へお振込み)

H 24.8.23 T・K 様 (ゆうちょ銀行へお振込み)

『NPO法人うりずん』のファンドレイジング担当

“うりぼう”より 吉川かおり



●前号にてお知らせ致しました通り、この度、うりぼうの口座でのご寄付の受付を終了し、うりぼうがお預かりしておりましたゆうちょ口座の寄付金に、切手・書き損じハガキのご寄付分を合わせました計1,767,233円をスロープ車購入のための資金としてNPO法人うりずんに引き継ぎさせていただきました。

うりずんを支援する団体としてのうりぼうは役割を終え、活動を終了いたしました。これまでにいただきました温かいご支援や励ましのお言葉のひとつずつを振り返り、感謝の気持ちでいっぱいです。

ほんとうにありがとうございました。

●さて、長く暑かったこの夏に、うりぼう号が活躍できなかったことが悔やまれます。冬こそは、寒い中でもご利用者の皆様が外出を楽しむことができるよう、お寄せいただいたご寄付の中でうりぼう号の購入を実現させることを優先に考え、いただいたアドバイスやご協力のお申し出を生かさせていただき、柔軟に対応していきたいと思ひます。皆様にもお力をお貸しいただくことがあるかも知れませんが、その節には、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ご支援のお願い

事務処理上の関係で大変恐縮ですが、必ず賛助会員・寄付申込書をうりずん宛にFAXまたは郵送でお送りください。

用紙はホームページ (http://hibari-clinic.com/shiryo_box/file/urizun_kifu.pdf) に掲載しております。(または、FAXでご連絡いただければ、用紙を郵送いたします。)

入金ならびに申込用紙をこちらで確認できた後に、領収証をお送りさせていただきます。

【記入上のご注意】

必ず、申込者のお名前、ご住所、申込内容ならびに金額、匿名希望について記入していただきますようお願い申し上げます。

〇賛助会員のお申し込みの場合

個人年会費 または 団体年会費 のどちらかを選択してください。

〇一般ご寄付のお申し込みの場合

- ① 一般寄付 (使途自由) ② スロープ車うりぼう号の購入
 - ③ 子どもと家族のための地域拠点整備
 - ④ 外出支援 (修学旅行など)
- の中から一つを選択してください

【各種振込先のご案内】

※振込み手数料は別途ご負担をお願い致します。

ゆうちょ銀行<ゆうちょ銀行からのお振込み>

口座番号: 00110-4-441471

口座名: 特定非営利活動法人うりずん

<ゆうちょ銀行以外からのお振込み>

〇一丸店 (ゼロイチキュー店) 当座: 0441471

**NPO法人うりずんでは
通信発行を支援してくださる協賛企業様を
随時募集しております。**

「うりずん通信・テレマカシー」は年4回の発行となります。一回の発行費用に、印刷・郵送代などで15万円ほど必要となります。

そこで、広告代として通信発行を支援していただける協賛企業様を募集いたします。

次号掲載のご希望の方は、12月中旬までにNPO法人うりずんまでご連絡ください。

皆様方のご協賛・ご支援を宜しく申し上げます。

協賛企業様

あなたのキャリアにエールを



KEEP CARRIÈRE
キープキャリエール

皆様からのご支援を活用させていただき、

『新・クリスマス会』

を企画します!



このたび、うりずんでは事業拡大、利用者の増加に伴い、例年事業所内で手作りで回数を分けて実施していたクリスマス会の開催方法を見直しました。

今回はご家族、きょうだい、ご本人が一同に集い、一緒に楽しむ行事として、劇団を招き、会場を借りて開催することを企画しました。

新たなクリスマス会は、12月16日(日)の午後の予定です。メインのイベントは劇団「小さなお城」による人形劇の講演です。

例年、宇都宮市社会福祉協議会様からの歳末たすけあい運動分配事業の事業配分金を頂戴していますが、今年は費用がさらにかかると予想されます。そこで、皆様よりご支援いただいているご寄付の中から、クリスマス会の必要経費(人形劇の講演費用、交流会の食事代、プレゼント代など)を計上させていただきますことをご承知いただきますようお願い申し上げます。

なお、次号の通信で、新クリスマス会の様子をご報告させていただきます。